

高専プロコンへの提言

弓削商船高等専門学校 井上香澄

1. プロコン初体験

私は、今回初めてプロコンを経験しました。自分が想像していた緊張した堅苦しい空気はなく、にぎやかでみんなとても楽しそうでした。実際にデモをしているときは企業の方々に自分たちが作ったプログラムを紹介し、売り込む営業のような感じでとても新鮮でした。他の高専生と交流する機会もあり充実した時間を過ごせました。また、プロコン当日だけでなく製作期間中はメンバーと協力する楽しさ、システムを作る大変さを知りました。しかし、完成したときの達成感は何とも言えず、実際に経験した人にしか分からないものだと思います。プロコンは普段できなかったことを一気に経験することができるものだと私はそう思います。

2. 提案

プロコンをよりよくするために私は三つの提案をします。

- ・ 学生による相互評価
- ・ みんなが楽しめるテーマ
- ・ プロコンの知名度を上げる工夫

2.1 学生による相互評価

一つ目は、課題部門と自由部門の審査に学生枠を設けることです。審査員の方々や企業の方々それぞれの視点から見たアドバイスをいただいて、自分たちが作ったプログラムの違った面や意見を聞くことができるとてもよかったです。しかし、プロコンに参加する同じ立場の学生からの意見を聞くことがあまりできませんでした。もちろん、デモ中にブースに訪れていただいた学生さんの感想を聞くことはできました。しかし、プロコンに参加した全ての学生が他の高専のブースに立ち寄って見る事ができていないと思います。せっかくプロコンに参加したのに、見てまわることができないのはもったいないと思います。そこで、学生がまわって見る事ができるような時間を設け、アンケートで感想・意見をいただければいいと思います。審査とはひと味違った学生視点での評価により、私たちのモチベーションもさらに高まると思います。

2.2 みんなが楽しめるテーマ

二つ目は、プログラミングに詳しくない人たちでも楽しむことができるようなテーマにすることです。

プロコン会場に来ていただいた一般の方でもプログラミングがどういうものを理解でき、楽しめるようなものだと思います。例えば、ゲームを課題部門のテーマにし、各チームの作品を体験できるようにする、競技部門を実際に体験できるコーナーがあるといいと思います。

2.3 プロコンの知名度を上げる工夫

三つ目は、プロコンの楽しさをもっとたくさんの人と共有できるようにすればいいと思います。私は、プロコン自体を知らない人が多いように思われます。聞いたことがあっても何をしているのか詳しく知らない人もいます。私も、冒頭でも書きましたようにイメージしていたのとだいぶ違いました。すばらしい経験のできるプロコンを知らないのはもったいないと思います。プロコンの知名度を上げるためにも、メディアを活用すればいいと思います。TV放送だと難しいとのことなので、ライトノベルやコミックスなど気軽に手に取って見てもらえるようなものだと思います。作家の中には高専に興味がある方もおられるかもしれません。一度コンタクトをとってみてはいかがでしょうか。

「ロボコン」のように、映画として取り上げられるまで、チャレンジを続けてもらいたいです。

3. これから

プロコンを経験し、学んだことはたくさんあります。中でも、人に伝える大切さ、楽しさを知ったと思います。私は日々の生活の中で、相手に分かってもらえるように伝えることが難しいと最近になって意識するようになりました。

プロコンを通して分かったことは、いろんな人とたくさんコミュニケーションすることが大切だということです。伝えたいことがおのずとまとめることができる人は相手に伝えようとする意欲と姿勢があり、そして経験を積み重ねてきたからだとは思います。私はまだ経験が浅いので、これから積み重ねて伝える楽しさをもっと知っていきたいです。プロコンが終わって、人に伝えることが少しだけ上手になったと思えるときがありました。成長を実感することができてうれしかったです。

このような体験のできるプロコンにまたチャレンジしたいと思います。

【連絡先】 〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 弓削商船高等専門学校 情報工学科1年 井上香澄

【キーワード】 アンケート テーマ 知名度 メディア